

第3章 人づくりの視点

1 「つむぐ おりなす」協働による取組みの推進

標題の「つむぐ おりなす」は、県民との教育論議の成果として導き出されたもので、次代を担う子どもたち一人ひとりの個性やよさを「つむぐ」ように大切に育てるため、まわりの大人たちが様々に「おりなす」ようにかかわり合っていこうという願いが込められたものです。

このような、かながわの人づくりを実現するには、皆が思いを一つに重ね合い、それぞれの持ち味を響き合わせながら、共に育ち、成長を続けるという循環型の教育・学習社会の形成をめざしていくことが重要です。

協働に基づく、このような人づくりが進めば、学校だけでは果たせなかった新たな教育の地平が広がっていくと考えます。

2 人の発達段階を通じた各主体のかかわり

人は、誕生してから人生を終えるまで、社会や文化、自然などから生涯にわたり様々な影響を受け、成長・発達を続けていくものです。

そうした中で、人が生活し活動していくには、多様な資質・能力が必要となり、教育は、これらを身に付ける上で、たいへん重要な役割を担っています。

人の成長・発達に即して、このような資質・能力や「人間力」を獲得していくためには、様々な教育の主体の役割が重要になります。

ここでは、それぞれの主体が個に応じて、どのように支援を行っていることが望ましいかを、発達段階ごとに整理しました。その全体を示したものが、右の表です。具体的には、発達段階ごとに概ねの目安となる「大切にしたい育ち（学び）の姿」と「人づくりをめぐる状況」を整理した上で、人づくりにかかわる家庭、地域（NPO法人などを含む）、学校・保育所、企業、市町村、そして県の主体ごとに、それぞれの役割と具体的な取組みの方向性を、イメージとして示しています。

本章を参考に、各主体がそれぞれの立場から、かながわの人づくりに主体的にかかわり、取り組んでいくことを期待しています。

生涯を通じた人づくりにおけるそれぞれの段階と目標

本表は、人生の上で大きな節目や転機となる出来事を見すえながら、人の一生を次のような年齢区分により、4つの段階に分け、それぞれの人づくりの目標を整理しました。ただし、この整理はあくまでも目安であって、実際には様々なあり方や生き方があり、それぞれに十分尊重されなければなりません。

年 齢	教育ビジョンにおける人づくりの段階と目標	節目や転機となる出来事
誕生 ↓ 概ね6歳頃	1 健全な心身と生活の基礎を培う段階 (乳・幼児期) 親への信頼感を深めながら、家庭を中心に、基本的な生活習慣や態度を身に付けるとともに、集団での遊びや運動などの体験を通じて、健全な心身の基礎を培う。	家庭での生活 保育所 幼稚園 入園 特別支援学校入学 小学校入学 中学校入学 高校進学 大学等進学 就労 退職
↓ 概ね18～22歳頃	2 自分らしさを探求する段階 (児童・青年期) それぞれの学校段階において、確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う。 ・この段階は、児童期と青年期に区分して整理	
↓ 概ね65歳頃	3 社会的・経済的に自立する段階 (成人期) 職業生活への円滑な移行と社会的・経済的な自立をめざし、自覚と責任ある行動力や社会に貢献する力を身に付ける。	
↓	4 豊かな人生を探求する円熟の段階 (円熟期) 学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいをもち、自分づくりに取り組むとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に努める。	

○ 本表は、ハヴィガースト(Havighurst, R. J)やエリクソン(Erikson, E. H)の発達に関する研究や内閣府の「青少年育成施策大綱」などを参考に、県民との教育論議に基づき、神奈川県教育委員会として独自に作成したものです。

1 健全な心身と生活の基礎を培う段階（乳・幼児期） 0歳から概ね6歳頃まで

親への信頼感を深めながら、家庭を中心に、基本的な生活習慣や態度を身に付けるとともに、集団での遊びや運動などの体験を通じて、健全な心身の基礎を培う。

大切にしたい育ちの姿

自分づくりのスタートとなる時期です

- 親の愛情に包まれ、家族と共に生きることの安心感や期待感、家族の信頼に応える喜びや感謝の気持ちなどが、家庭でしっかりとほぐまれている。
- 親をはじめとする大人とのかかわり合いを通じて、自己の欲求や感情が十分に満たされている。
- 周囲の環境にはたらしかけながら、自分に自信をもち、身近な人への愛着を抱くなど、基本的な信頼関係が築かれている。

基本的な生活習慣・態度を身に付ける時期です

- 早寝や早起きなどの基本的な生活リズムが出来上がっており、着替えや食事など身の回りのことを自分の力で行っている。
- しつけを通して基本的で社会的な生活習慣が身に付いている。



健全な心身の基礎を培う時期です

- 生活体験や自然体験などを通して、あらゆる活動の源になる体力がしっかり身に付いており、健全な心身の基礎が培われている。
- 「遊び」を通して様々な能力が高められ、自分でできる、自分でしてみたいという自立に向けたはたらきかけが盛んに行われている。
- 幼児期には、親や家族から友だちへと人間関係が広がり、集団の中で一人ひとりが互いに気持ちよく過ごすことのできるルールやマナーを身に付けている。

人づくりをめぐる状況

子ども

- 「自分の思うことは何でも通る」と考える自我が肥大化した子どもと、反対に「自分を大切に思えない」という自己肯定感の弱い子どもが増えていること
- 外遊びをしない子どもが増えていること

家庭生活

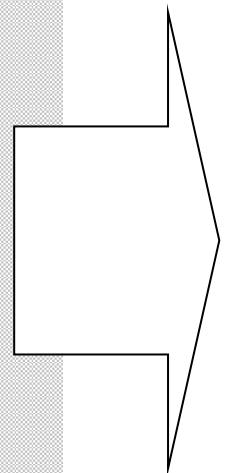
- 親の生活時間が優先され、子ども本来の生活リズムがつくられにくい家庭が見られること
- 子どもの発達段階に応じた基本的な生活習慣のしつけなどを行っていない親が見られること

子育て環境

- 子育てへの不安や悩みを抱える親が増えていること
- 子育てが「孤育て」の状況になっている場合が少なくなること
- 子どもとふれあう時間やゆとりが少ないこと
- 子どもとの信頼関係が築けない親が以前より多く見受けられること
- 親自身も自分が成長してきた過程の中で、子育てを身近に感じる機会が減っていること
- 発達の遅れや障害などのある子どもをもつ親や家庭に対し、適切な支援が求められていること

地域

- 地域の連帯感の希薄化などから、子どもが大人とかかわる機会や活動が減少していること
- 身近な地域に子育ての相談や情報入手の場がないこと
- 幼児期の教育の充実を図るため、地域の実情に応じた幼稚園と保育所のあり方、小学校を含めた連携の促進が求められていること



1 健全な心身と生活の基礎を培う段階（乳・幼児期）

各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の子どもにとっては、親とのかかわりが非常に大切となります。親との健全な関係が前提となって初めて、興味・関心が外へ向かう意欲が自然に生まれてきます。

そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、家庭生活においては子どもへの直接的なはたらきかけ方、その他については、家庭の子育てに対する支援のあり方を中心に、それぞれまとめています。

家庭

子育て・教育を通じた生活の基本に関する学びの提供

- 子どもを抱きしめたり、褒めたりするなど愛情をもって接し、基本的な信頼関係を形成するなど、家庭での子育て・教育の目標を明確にする。
- 親子で外遊びや運動に関して積極的に親しむ。
- してはいけないこと、まちがったことをきちんと理解させる。
- 子どもの顔を見ながら、話を聞き、安心感がもてるようにする。
- 起床・着替え・食事・あいさつ・睡眠などの基本的な生活習慣をはぐくむ。
- 家族関係を大事にし、子ども自身が愛されていると感じられるよう大切に育てる。
- 親が子育てに関する講座に参加するなど、家庭とのつながりを大切にする。



幼稚園・保育所

遊びや体験を通じた総合的な教育や保育の推進

- 家庭と十分な連携をとり、子ども一人ひとりの理解に努め、適切な対応や支援を図る。
- 集団での遊びや運動などを大切にして、生涯にわたる人間形成の基礎を育てる。
- 多様な教育的ニーズに応え、一人ひとりに応じた適切な支援に取り組む。
- 幼稚園や保育所が子どものみならず、親の育ちの場となるよう関係機関との連携による「子育てセミナー」の開催や、子育て情報の発信、相談支援に努める。
- 認定こども園制度*を生かして、小学校就学前の子どもに対する教育と保育、親に対する子育て支援の総合的な提供に取り組む。

※ 以降、それぞれの発達段階における人の成長に関わりが深いと考える順に、各主体についての記述を配置しました。（P39の配置順とは一部異なります。）

地域

子育て家庭への支援、交流の場の提供

- 地域の乳幼児や、その親・家族の方などがいたら、できる限り声をかける。
- 自治会など地域の組織を通じて、子どもたちが安心して元気に遊ぶことのできる場や、親同士の交流の場を確保する。
- 家庭や学校などと連携して、地域の子どもの安全・安心に取り組む。
- 良好な親子関係をつくるために、様々な体験活動を通じて、人と人、人と自然など、ふれあう場や機会の提供に努める。

企業

子育て家庭への理解促進、従業員などの子育て支援

- 家庭で子どもとふれあう時間をつくり、子どもが家庭で十分な愛情を受けられるよう、育児休業制度などの休暇制度の工夫や、子育てをしながら働き続けられる環境づくりの推進など、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活との両立）をとることに努める。
- 家庭教育についての講演会や研修を設けるなど、市町村や県などと連携して、子育てに対する意識や子どもは次代を担う宝であるという意識の醸成に努める。
- 幼稚園や保育所、地域や家庭などでの活動や取組みをサポートするための場や機会の提供に努め、協力する。

市町村

子育て支援や幼稚園・保育所・小学校などの連携促進

- 地域における子育てや家庭教育を支える活動拠点を生かして取り組む。
- 幼児期から児童期の教育への円滑な移行に向け、幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校の教職員が相互に職場体験や交流研修などを実施し、教育・保育が一体となった取組みを推進する。
- 家庭での教育・子育ての相談窓口の開設やアドバイザーの巡回派遣による身近な地域での子育て相談などの取組みを、関係機関との連携・協力により推進する。

県

家庭教育の大切さを共有できる環境づくり

- 人づくりに向けた適切な支援が行われるよう、幼児期から児童期の教育への円滑な移行に向けて、情報の共有化や連携・協力の促進に努める。
- 市町村や関係機関などとの連携・協力により、親子でのふれあいの大切さを自覚し、実感できる機会を設定するほか、幼児期の運動や体力づくりに関して親や教職員の意識改革を進める取組みを行う。
- 幼児期の教育についての環境整備など、その振興に努める。
- 子どもの発達に即した、親向けの教育プロジェクトなどを企画し、実施する。
- 食育*を含めた健康教育に関する情報の提供を行う。
- 幼稚園や保育所、市町村と連携・協力して、支援が必要な子どもへの対応を強化する。
- 子どもが、健康的な生活リズムを身に付けることができるような、教育ムーブメント（教育的な運動や活動）を先導する。
- 企業や社会に対して、子育て支援への理解促進を図る取組みに努める。

2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期） 概ね6歳頃から18～22歳頃まで

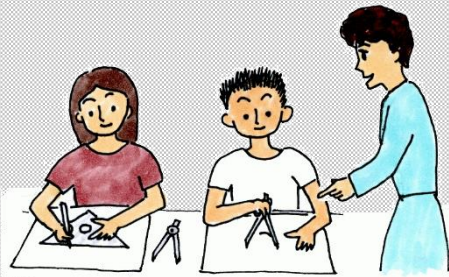
それぞれの学校段階において、確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う。

児童期 [概ね6歳頃から12歳頃まで]

大切にしたい育ちの姿

自分らしさを探求する時期です

- 自信や自己肯定感を育ち、自分の良さや可能性を認め、自らを大切に育ち、夢や希望を掲げ、目標に向かって取り組んでいる。
- 豊富な体験を通して、多様な社会や文化に触れ、自己形成を進め、学びの場を深め、自己形成を進めている。



健全な生活・運動習慣を身に付ける時期です

- からだの発育や発達が著しく、食事や睡眠などの生活習慣や健康・体力の増進などの運動習慣を形成する。
- 自らを守り危険を回避できる資質や能力をはぐくみ、安全・安心に関心をもつ。

確かな学力を身に付ける時期です

- 学校生活を中心に、知的好奇心を抱きながら、徐々に活動範囲を広げ、発達や学年段階に応じた学習活動に取り組んでいる。
- 学ぶ意欲や態度、学習の習慣が身に付き、知識や技能、創造力や表現力など多彩な資質や能力、個性を伸ばしている。

豊かな人間性・社会性を身に付ける時期です

- 子ども同士の集団活動を通して、多様な個性の中から、仲間意識が育っている。
- 文化の違いや障害の有無にかかわらず、人々を尊重し、思いやる心がはぐくまれるなど、豊かな人間性や社会性が培われている。

人づくりをめぐる状況

児童

- 就学前の育ちに起因し、学校生活や授業に上手く適応できない子どもが増えていること
- 基本的な生活習慣が身に付いていなかったり、人とのコミュニケーションが上手くとれない、好ましい人間関係が築けない子どもが以前より多く見受けられること

家庭生活

- 家族の絆や家庭での安心感が子どもの成長に大きく作用していること

学校

- たくましく生きるための健康や体力、確かな学力や豊かな心を、発達に応じて着実に身に付けること
- 核家族化や情報化などが進む中で低下が懸念されている、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を深める機会を充実すること
- 多様な教育的ニーズに対応できる環境を充実させていくこと
- 発達障害などにより支援を必要とする子どもに対して、家庭や医療機関などと連携した適切で迅速な対応を図ること
- 家庭や地域の実態を踏まえて、それぞれの学校が設定した教育目標の達成をめざして取り組む必要があること

地域

- 子ども一人ひとりの様々な悩みや不安への相談に適切かつ迅速に対応するなど、多くの人々が互いをよく理解し合いながら、共に助け合い、支え合って人づくりを進めること
- 人や自然とかかわる力の育成に向け、体験活動や異年齢交流などの機会をつくること
- 学校と協力し、職業観・勤労観の育成に向けた体験学習の場や機会をつくること



2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期）

児童期〔概ね6歳頃から12歳頃まで〕

各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の人づくりは、学校のみならず、家庭や地域がそれぞれの役割を自覚しながら、連携・協力し合って取り組んでいくことが非常に重要になります。また、子ども自身が意欲を持続し、目標をもって主体的に学んだり、体験を通じて自己を形成したりすることができるような、生き方・進路を考える教育の場や機会も大切です。そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、家庭・地域・企業については成長・発達に応じた教育的な支援のあり方を中心にまとめ、学校については学校教育全体としての取組みの視点から、さらに市町村・県については総合的なかかわりの視点からそれぞれまとめています。

家庭

自己形成や進路実現に向けた的確な支援

- 食事や睡眠など規則正しい生活習慣を身に付け、また正しいしつけを行う。
- 日常的な生活体験の機会を増やし、親子のふれあいを大切にする。
- 家庭での目標や役割を決め、家族としての自覚と責任を育てる。
- 学校生活や学習について、親子で話し合う機会を積極的につくる。
- 親同士や地域の人々とのつながりや交流の機会を大切にする。
- あいさつなどの声かけや見守りを通して、子どもの安全確保に努める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動にふれる機会をつくる。

学校

学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業など一体となった学校づくり

- 幼児期の教育・保育から小学校や特別支援学校での教育への適応を図る。
- 学校間・校種間の連携*・協力を促進し、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力*の育成に取り組む。
- 学校教育全般を通じて、学習意欲や主体的に学ぶ姿勢などの学ぶ力を育てる。
- 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育*に取り組む。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育*）を推進する。
- すべての人が人として認め合うことを大切にする態度をしっかりとほぐむ。
- 道徳教育を中心に学校教育全体で、友人を思いやる心や様々な人々と共生できる豊かな心、公共心や規範意識など人々とかかわる力などの育成に努める。
- PTAなどを仲立ちとして、家庭や地域などと協力し、生活習慣や学習習慣をしっかりとほぐむ。
- 乳幼児とのふれあい体験や高齢者との交流体験などを通じて、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を、家庭・地域・企業など一体となって深める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動への積極的な参加を促す。



地域

異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援

- 子育て・教育を縁としたつながりや交流がもてるよう、家庭に対して働きかける。
- スポーツ活動など、豊かなくらしの創造や健康の保持増進につながる活動の場・機会をつくる。
- 学校の教育活動などの取組みに協力して、ボランティア活動の受け入れや様々な体験の場の提供を行い、地域の中の子どもを豊かに育てる。
- 家庭や学校と協力して、あいさつなどの声かけや見守りを通して、子どもが安全に過ごし、安心できる居場所づくりに努める。
- 子どもから大人まで、様々な体験活動を通して、異世代交流ができる場や機会をつくる。
- 地域での様々な活動を通して、相互に基本的なルールやマナーなどを身に付けることができるように努める。
- 地域の活動や交流を継続・発展させる次代を担う地域リーダーを育てる。

企業

職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援

- 地域の産業学習や仕事調べなど、学校の教育活動や学習者の主体的な学習について理解と協力を努める。
- 企業の豊富で多彩な人材を、学校や地域などの要請で外部講師として派遣する。
- 職場見学や訪問などを通して、望ましい職業観や勤労観を育成できるよう、未来の職業人の育成に向けて教育の場として企業の門戸を開く。
- 学校などと連携・協力して、生きることや働くことの大切さを学び、考えるキャリア教育を推進する。
- 従業員が、家庭での子育て・教育や、地域での活動に取り組むことができるように、職場での諸制度の整備や環境づくりに努める。
- 教育機関との連携・協力により、県内の産業や職業に対する理解を深め、働くことに生きがいや誇りがもてるような取組みを推進する。

市町村

地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくり

- 「確かな学力」の向上のため、校種間の接続や学びの系統性・継続性を重視し、個に応じたきめ細かな指導の充実と教育の質的向上を図る。
- 各学校が内外の人や関係機関などと連携し、一人ひとりのニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努めるよう支援する。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 授業研究*をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 学校教育や社会教育などが抱える様々な教育課題に対して、家庭・地域・企業や県などと協力し、一体となって解決に向けて取り組む。
- 子どもの学校生活や学習への円滑な適応を図るため、幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校、小学校と中学校など、学校間や校種間などの連携を促進する。
- 子育て・教育に関する支援ネットワークの整備や取組みの促進に努める。
- 県などと協力しながら、地域の学校や保育所、公民館などを中心に、家庭や地域との連携を促進するしくみづくりや人材の育成に努める。
- 人づくりを進める教育環境の整備・充実に努める。

県

様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備

- 個性や文化の違い、障害の有無にかかわらず、多様な教育的ニーズに応え、子ども一人ひとりを大切にはぐくむ教育を推進する。
- 市町村や教育機関などと協働して、かながわ独自の学習状況調査を実施し、子どもの主体的な学びと意欲を高めるとともに、指導者の授業改善などを支援する。
- ボランティア活動など、様々な体験活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育を推進する。
- 子ども理解や、学習者にとってわかりやすい授業づくりに向けて、実践的な指導技術に関する教職員の研修機会を充実する。
- 指導力の高い教職員の養成・確保・育成を強化して取り組む。
- 教職員の協働と組織の力を発揮できる学校体制の構築に取り組む。
- 時代や社会に対応できる豊かな知性を身に付ける教育を推進する。
- 家庭や地域、学校などが連携して、子どもの運動やスポーツ活動の推進に努める。
- 外部評価など学校運営の改善に生かせる学校の機能向上を図るしくみづくりに取り組む。
- かながわの人づくりを支える教育環境の整備・充実に努める。



2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期）

青年期 [概ね 12 歳頃から 18~22 歳頃まで]

大切にしたい育ちの姿

自分らしさを探求する時期です

- 自我の発達がめざましく、自主性や独立性の欲求が高まり、自己の存在や価値を問う一方、反抗期を乗り越え、自分らしさを確立する。
- 学び方やものの見方・考え方を身に付けるとともに、進路実現に向けて自己の能力を伸ばす。
- 豊富で多様な体験を通して、学んだこと、関心のある分野や社会などについて、自己形成を進めようとする。

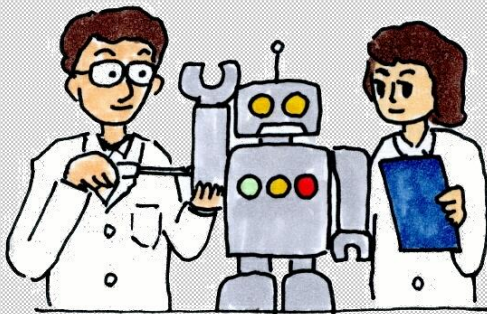


発展的な知識・技能を身に付ける時期です

- 学校生活を中心に、知的な好奇心を向上させながら、活動範囲を広げ、発達や学年段階に即して、次第に高度な学習内容に取り組むようになる。
- 中学校期以降、進学や就職などを通して、人々や社会との交流が広がる中で、自己形成や価値観の形成をはじめ、社会的な知識・技能の習得などを深めている。

家庭など将来の生活を考える時期です

- 将来、家庭を築き、親となる主体として、子育てや家庭教育の意義などについて学び、考える。



豊かな人間性・社会性を向上させる時期です

- 様々な体験活動から、ボランティア活動にも意欲をもち、社会に貢献しようとする前向きに行動している。

人づくりをめぐる状況

青年

- 小学校から中学校へなど、校種が変わり、学校生活や授業に上手く適応できない人が増えていること
- 基本的な生活習慣や人とのコミュニケーションが上手くとれない、好ましい人間関係が築けない人が以前より多く見受けられること
- 自己を見つめ適切に理解し、自らの夢や目標に向かってチャレンジする意欲や態度を身に付ける必要があること
- 人生の選択時期を迎えて、自らの適性を十分認識し、生き方・進路を考え、選択し、自己決定する力を身に付ける必要があること
- ボランティア活動など様々な体験を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむことが求められていること

家庭生活

- 家族の絆や家庭での安心感が、成長に大きく作用していること



学校

- たくましく生きるための健康や体力、確かな学力や豊かな心を、発達に応じて着実に身に付けること
- 核家族化や情報化などが進む中で低下が懸念されている、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を深める機会を充実すること
- 多様な教育的ニーズに対応できる環境を充実していく必要があること
- 発達障害などにより支援を必要とする人に対して、家庭や医療機関などと連携した適切で迅速な対応を図ること
- 家庭や地域の実態を踏まえて、それぞれの学校が設定した教育目標の達成をめざして取り組む必要があること

地域

- 一人ひとりの様々な悩みや不安への相談に適切かつ迅速に対応するなど、多くの人が互いをよく理解し合いながら、共に助け合い、支え合って人づくりを進めること
- 人や自然とかかわる力の育成に向け、体験活動や異年齢交流などの機会をつくること
- 学校と協力し、職業観・勤労観の育成に向けた体験学習の場や機会を充実させること

2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期）

青年期〔概ね12歳頃から18～22歳頃まで〕

各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の人づくりは、学校のみならず、家庭や地域がそれぞれの役割を自覚しながら、連携・協力し合って取り組んでいくことが非常に重要になります。また、子ども自身が意欲を持続し、目標をもって主体的に学んだり、体験を通じて自己を形成したりすることができるような、生き方・進路を考える教育の場や機会も大切です。そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、家庭・地域・企業については成長・発達に応じた教育的な支援のあり方を中心にまとめ、学校については学校教育全体としての取組みの視点から、さらに市町村・県については総合的ななかかわりの視点からそれぞれまとめています。

家庭

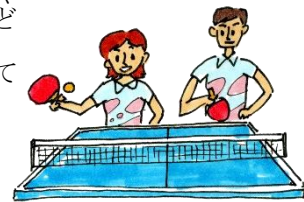
自己形成や進路実現に向けた的確な支援

- 日常的な生活体験の機会を増やし、親子のふれあいを大切にする。
- 学習や進路について親子で話し合う機会を積極的につくる。
- 親同士や地域の人々とのつながりや交流の機会を大切にする。
- 自ら選択して決め、結果に対して責任がとれるよう、よき社会人の先輩として、的確なアドバイスをしたり、相談にのったりする。
- 社会的・経済的な自立をめざして、支え合い、応援する。

学校

学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業などと一体となった学校づくり

- 学校間・校種間の連携・協力を促進し、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力の育成に取り組む。
- 学校教育全般を通じて、学習意欲や主体的に学ぶ姿勢などの学ぶ力を育てる。
- 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育に取り組む。
- 地域での貢献活動やボランティア活動、職場体験などの体験活動を通して、生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 進学や就職など生徒個々の多様な進路目標を実現するため、学習活動や進路指導の充実に取り組む。
- すべての人が人として認め合うことを大切にする態度をしっかりとほぐくむ。
- 道徳教育を中心に学校教育全体で、友人を思いやる心や様々な人々と共生できる豊かな心、公共心や規範意識など人々とかわる力などの育成に努める。
- PTAなどを仲立ちとして、家庭や地域などと協力して健全育成に努める。
- 乳幼児とのふれあい体験や高齢者との交流体験などを通じて、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を、家庭・地域・企業などと一体となって深める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動への積極的な参加を促す。



地域

異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援

- 教育を縁としたつながりや交流がもてるよう、家庭に対して働きかける。
- スポーツ活動など、豊かな暮らしの創造や健康の保持増進につながる活動の場・機会をつくる。
- 学校の教育活動などの取組みに協力して、ボランティア活動の受け入れや様々な体験の場の提供を行い、地域の中で豊かに育てる。
- 家庭や学校と協力して、あいさつなどの声かけや見守りを通して、安全に過ごし、安心できる居場所づくりや、親のコミュニティの場づくりに努める。
- 子どもから大人まで、様々な体験活動を通して、異世代交流ができる場や機会をつくる。
- 地域での様々な活動を通して、相互に基本的なルールやマナーなどを身に付けることができるように努める。
- 地域の活動や交流を継続・発展させる次代を担う地域リーダーを育てる。

企業

職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援

- 地域の産業学習や仕事調べなど、学校の教育活動や学習者の主体的な学習について理解と協力を努める。
- 企業の豊富で多彩な人材を、学校や地域などの要請で外部講師として派遣する。
- 職場体験学習やインターンシップ*などを通じて、自己理解や人間関係の大切さを知り、望ましい職業観や勤労観を育成できるよう、未来の職業人の大成に向けて、教育の場として企業の門戸を開く。
- 若者の社会的・経済的な自立に向けて、学校などと連携・協力して、生きる意欲や働くことの大切さを学び、考えるキャリア教育を推進するとともに、働く意欲のあるすべての若者が活躍できる雇用環境づくりに努める。
- 従業員が、家庭での子育て・教育や、地域での活動に取り組むことができるように、職場での諸制度の整備や環境づくりに努める。
- 教育機関との連携・協力により、県内の産業や職業に対する理解を深め、働くことに生きがいや誇りがもてるような取組みを推進する。

市町村

地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくり

- 「確かな学力」の向上のため、校種間の接続や学びの系統性・継続性を重視し、個に応じたきめ細かな指導の充実と教育の質的向上を図る。
- 各学校が内外の人や関係機関などと連携し、一人ひとりのニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努めるよう支援する。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 授業研究をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 学校教育や社会教育などが抱える様々な教育課題に対して、家庭・地域・企業や県などと協力し、一体となって解決に向けて取り組む。
- 学校生活や学習への円滑な適応を図るため、小学校・中学校・特別支援学校や、中学校と高校など、学校間や校種間の連携を促進する。
- 教育に関する支援ネットワークの整備や取組みの促進に努める。
- 県などと協力しながら、地域の学校や保育所、公民館などを中心に、家庭や地域との連携を促進するしくみづくりや人材の育成に努める。
- 人づくりを進める教育環境の整備・充実に努める。

県

様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備

- 個性や文化の違い、障害の有無にかかわらず、多様な教育的ニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努め、一人ひとりを大切にはぐくむ教育を推進する。
- 市町村や教育機関などと協働して、かながわ独自の学習状況調査を実施し、学習者の主体的な学びと意欲を高めるとともに、指導者の授業改善などを支援する。
- インターンシップなどの体験を通じて、生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 「確かな学力」の向上など、教育の質的向上を図る。
- 地域貢献活動やボランティア活動など、体験活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育を推進する。
- 授業研究をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 生徒理解や、学習者にとってわかりやすい授業づくりに向けて、実践的な指導技術に関する教職員の研修機会を充実する。
- 指導力の高い教職員の養成・確保・育成を強化して取り組む。
- 教職員の協働と組織の力を発揮できる学校体制の構築に取り組む。
- 時代や社会に対応できる豊かな知性を身に付ける教育を推進する。
- 家庭や地域、学校などが連携して、運動やスポーツ活動の推進に努める。
- 外部評価など学校運営の改善に生かせる学校の機能向上を図るしくみづくりに取り組む。
- かながわの人づくりを支える教育環境の整備・充実に努める。



3 社会的・経済的に自立する段階（成人期） 概ね18～22歳頃から65歳頃まで

職業生活への円滑な移行と社会的・経済的な自立をめざし、自覚と責任ある行動力や社会に貢献する力を身に付ける。

大切にしたい学びの姿

自分らしさを発揮し、自己実現をめざす時期です

- 職業生活や家庭生活を通して、担い手としての自覚と責任をもち、やりがいを感じて行動している。
- 自己の目標に向けて、生きがいのある自分づくりを進めている。
- 円熟した人生をめざして、再就職を支援する教育環境などを活用し、自己実現に向けた取組みに努めている。



それぞれに充実した生活を営む時期です

- 人それぞれの価値観や生き方を大切にするとともに、将来、家庭を築き、親になった際の自分づくりに向けて、子育てや家庭教育の意義などを学び考えている。
- 地域や社会で、主体的に充実した生活を営むとともに、家庭を築き、親となって子育てを行ったり、様々な形で子育ての支援に努めたりするなど、次代の人づくりにも積極的にかかわっている。
- 円熟期に向けて、後半生を有意義に過ごすライフプランづくりに取り組んでいる。

習得した知識・技能を発展させる時期です

- 身に付けた知識・技能を、職業人として生かし、さらに発展させている。
- リカレント教育*などを通じて得た知識・技能を、様々な場面で生かして活動している。

豊かな人間性・社会性を開花させる時期です

- ボランティア活動や、まちづくり・共同生活の継承・発展などにかかわるなど、地域や社会に貢献している。
- 次代の担い手の育成に携わるなど、社会の形成者として重要な役割と責任を担っている。
- スポーツやレクリエーションなどを通して、健康・体力づくりに努めている。
- 文化芸術にふれ、豊かさのある生活を営んでいる。

人づくりをめぐる状況

成人

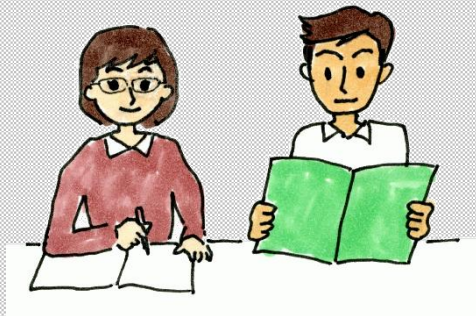
- よりよい人間関係を形成するため相手をきちんと理解することや、コミュニケーション能力などに関して、不安を抱えている人が増えていること
- 産業・雇用情勢の変化への対応や就業のための専門教育の受講など、社会的・職業的な自立をめざすことが必要であること
- 時代や社会の変化に対応して、学び直すことや学び続けることを通じて、自ら高めていこうとする意欲や行動力に、課題が見受けられること

家庭生活

- よりよい家庭生活を築くことや子育てについて不安を抱く若い世代や、悩みを抱える親が増えていること
- 過保護や過干渉、行き過ぎたしつけや放任といった親の子育てのあり方が、発達の遅れなど多様な育ちを生み出していること

企業

- 職場などでの様々なストレスや悩みから、生きがいをもてない人が増えていること
- 子育てや学校・地域での活動に参加できる職場環境の整備と意識の醸成が必要であること
- 障害者の就労を促進する必要があること



地域

- 地域での行事などに参加する意識が低下していること
- 地域での教育や子育てを支援する、家庭や様々な主体をつなぐネットワークの形成や、新たなコミュニティづくりが求められていること
- 学び直しや学びの継続に対応するため、リカレント教育やスポーツ・文化芸術の振興を図る拠点が必要であること

3 社会的・経済的に自立する段階（成人期）

各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の自分づくりは、家庭や社会とのかかわりが非常に大切になります。社会的・経済的な自立をめざすとともに、生きがいをもちながら、人生を歩んでいくには、多くの人や社会とのかかわり、自己実現に向けて、学び続けていくことが求められます。

そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、自分づくりに向けた周囲のあり方に注目し、家庭については、自立や自己実現に向けた相談・支援の役割を中心に、その他の主体については、自分づくりを生かす場や機会のあり方を中心にまとめています。

家庭

暮らしの営みや子育てなどを通じた学びの提供

- 社会的・経済的な自立に向けて、相談や支援を行う。
- 円満な家庭を築く努力を重ね、愛情と信頼にあふれる子育てに取り組む。
- 様々な悩みや不安などの解消に向けて、家族や身近な人で話し合うなど心の支えになる。
- 多様な家庭のあり方を尊重するとともに、暮らしの営みや子育て環境の充実に向け、交流や支援に努める。



企業

仕事を通じた職業人・社会人としての学びの提供

- 若者の社会的・経済的な自立に向けて、地域や行政、教育機関などと連携・協力して取り組むとともに、障害者の就労支援や自立支援への取組みを促進する。
- 従業員が、家庭・地域・学校などでの教育活動に、親として積極的にかかわり、取り組める職場環境づくりを推進する。
- 従業員が子育て中の親であり、また高齢者や障害者など支援を必要とする家族がいる場合、良好な家族関係が築けるような配慮や制度的な対応に努める。
- 企業が有する知識や技術などの継承に向けた人づくりに取り組むとともに、リカレント教育など自己実現に向けた取組みや研修などへの参加・奨励に努める。
- 子育てや介護などで仕事を離れた人材の再雇用の機会をつくる。

地域

活動の担い手となる交流の場・機会の提供

- 子育てをしている家庭にできる限り声をかけて応援する。
- 地域に居住する同世代の人を交流の場に誘う。
- 異世代間の交流の機会や次代を担う人づくりにかかわる場をつくる。
- 地域の教育力を結集し、協働で、家庭や学校が抱える教育課題の解決に向けて取り組むとともに、地域の担い手の育成にも努める。
- 地域の連帯意識の高揚に向け、地域スポーツ・文化クラブなどの育成に取り組む。
- 行政やNPO法人*などと協力して、生涯にわたって学ぶ場や機会をつくる。
- 地域の自然や歴史、伝統文化の保存や継承に対する意識を高め、行事などを通じて次世代に伝えていく取組みにかかわる。

学校

子育ての相談・支援や生涯学習などの場・機会の提供

- 地域や企業、行政や関係機関と連携・協力して、親の子育てについての相談や情報交流の場として門戸を開く。
- 行政やNPO法人などと協力して、リカレント教育の充実をはじめ、学び直しや新たな学びにチャレンジできる場や機会、しくみをつくる。

市町村

身近な地域における教育支援や生涯学習などの場・機会の提供

- 家庭での教育や子育てについて、気軽に相談や支援を受けられる場やネットワークの形成に、様々な主体と協働して取り組む。
- 地域や企業、県などと協力して、若者の自立支援に向けた取組みを推進する。
- 県やNPO法人などと協力して、学び直しや新たな学びにチャレンジできる場や機会、しくみをつくるとともに、生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みを進める。

県

広域的な教育の支援や生涯学習などの場・機会の提供

- 家庭や地域などでの教育に関する相談や支援の場、ネットワークの形成に、様々な主体と協働して取り組む。
- 新たな教育コミュニティ*を核とする家庭や地域、学校や企業、市町村などと連携した教育のしくみや人材の育成に取り組む。
- 豊かな県民ライフの創造に向けて、市町村や様々な関係機関などと連携し、多様な生涯学習活動や、文化芸術・スポーツ活動の推進に努める。

4 豊かな人生を探求する円熟の段階（円熟期） 概ね 65 歳以上

学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいをもち、自分づくりに取り組むとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に努める。

大切にしたい学びの姿

生涯にわたる自分づくりを続ける時期です

- 豊かな人生を過ごせるよう、自分づくりを着実に続けている。
- 生きがいをもち、円熟した人生を送っている。



環境の変化があっても前向きに生きる時期です

- 自らの健康・体力などの衰えにも上手く対応している。
- 長年、付き合い、連れ添ってきた親愛なる人との別れなど、精神的な試練を乗り越え、前向きに生きている。

培った知識・技能を次代に継承する時期です

- 長い人生で培ってきた知識・技能や経験を、次代の担い手に伝え、社会に還元している。

地域や社会にかかわり豊かに活動する時期です

- 第二の人生を迎え、これまで取り組めなかったことに励んでいる。
- これまで続けてきた学習や趣味などを継続し、楽しみをもって生活している。
- 近所や地域の人とかかわりをもち、ボランティア活動などの社会に貢献する活動を行っている。

人づくりをめぐる状況

成人（円熟期）

- 退職などにより、自らのあり方や社会での役割が変わる中で、第二の人生に向けて、生きがいや目標をもてない人が少なからず見受けられること



家庭生活

- 老いに備えた生活環境づくりや過ごし方ができる自分づくりを探求していく必要があること
- 家族との人間関係や家庭の環境などに悩みや不安を抱えていること
- 体力の衰えや健康面での問題に対応した家庭でのケアや介護の機能に課題があること
- 一人暮らしが増えるなど、人とのつながりが希薄化する傾向にあること

地域

- これまでの経験や身に付いている知識・技能を生かし、次世代に伝えていこうとする、意欲ある人がいるのに、そのための場や機会が少ないこと
- ボランティア活動など社会に参加・貢献する場や機会をつくる必要があること
- 地域の豊富な人材を活用するネットワークやしくみづくりの機能を活用していく必要があること
- 地域在住の豊富な経験や技能などのある人材を発掘し、コーディネートする推進者が必要であること



4 豊かな人生を探索する円熟の段階（円熟期）

各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

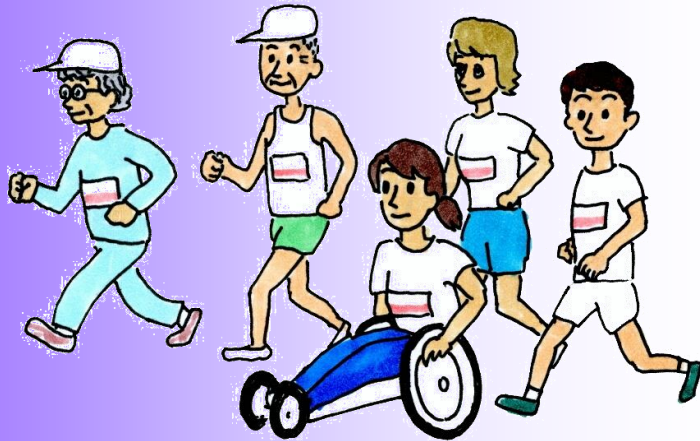
この時期の自分づくりは、家庭や社会とのかかわりが非常に大切になります。円熟期を迎え、第二の人生を、生きがいをもちながら、豊かに送れるよう、人や社会とかかわり、自己を生かしながら次代を担う人づくりに携わる一方で、学び続け、学び合っていくことが求められます。

そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、自分づくりに向けた周囲のあり方に注目し、それまでの知識や経験を生かし、自分づくりを生かす場や機会のあり方を中心にまとめています。

家庭

健康で豊かさのある家庭生活の提供

- 自ら健康や体力に留意するとともに、家族や地域などの協力を得て、介護や援助について気軽に相談できる環境やつながりを形成する。
- 長い生活体験や人生経験から得られた豊富な知恵や技能などを、家族に伝えることを通して、家庭での存在や役割について認識できるように努める。
- 家族や地域の人々との人間関係やかかわり合いをもてる場を大切にするこ
とで、自らの人生を主体的かつ前向きに生きる姿勢がもてるようにする。



地域

豊かな知識や経験を生かせる場・機会の提供

- 健康・体力づくりに向けて、様々な行事をはじめ、スポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりに取り組む。
- 地域の連帯や生活文化の継承・発展に向けて、豊かな知識や経験を生かせる場や機会をつくる。
- 次世代育成や地域の担い手の育成にかかわれる場や機会をつくる。

学校

長い経験から得た知識や技能を次世代の育成に活用する場や機会づくり

- 自己実現に向けて、知識や技能の習得が可能なカレント教育などの場としての提供・活用に努める。
- 学校での子どもたちの教育活動や生涯学習の機会で、これまで職業人として、あるいは子育て・家庭生活の経験者として身に付けた豊富な経験や知恵を、次世代の育成に向けて活用できる場や機会をつくる。
- 家庭や地域などと連携し、子どもの安全・安心に対する取組みや青少年の健全育成に参加し、貢献できるよう努める。

企業

これまでに身に付けた知識や経験の積極的活用

- これまで職業人として身に付けた経験や知恵を、次の世代に継承する場や機会をつくり、長年の功労に対する顕彰の意識を高める。
- 生活の支えとなる仕事を求めている人や、働く意欲のある人を積極的に雇用するよう努める。

市町村

地域での自分づくりを応援する場・機会の提供

- 県やNPO法人などと協力して、学び直しや新たな学びにチャレンジできる場や機会、しくみをつくるとともに、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組む。
- 生きがいをもち、学校や公民館など地域の身近な施設で、豊かな経験を生かして教えたり、また学んだりする場や機会をつくる。

県

自己を高めることのできる環境づくり

- 市町村やNPO法人などと協力して、学び直しや新たな学びにチャレンジできる場や機会、しくみをつくるとともに、生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みを進める。
- 豊かな県民ライフの創造に向けて、市町村や様々な関係機関などと連携し、多様な生涯学習活動や、文化芸術・スポーツ活動の推進に努める。
- 生涯学習や生涯スポーツの講師や指導者を、また郷土の自然や歴史・文化を次世代に伝える継承者を、それぞれ育成していく場や機会をつくる。

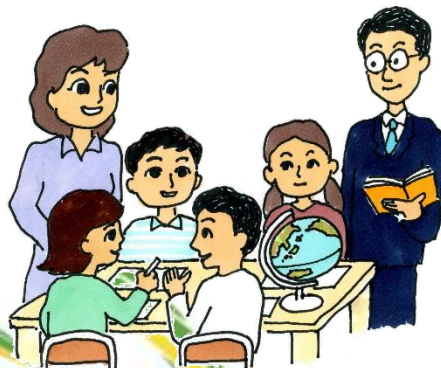
「つむぐ おりなす」協働による取組みの推進

1 健全な心身と生活の基礎を培う段階



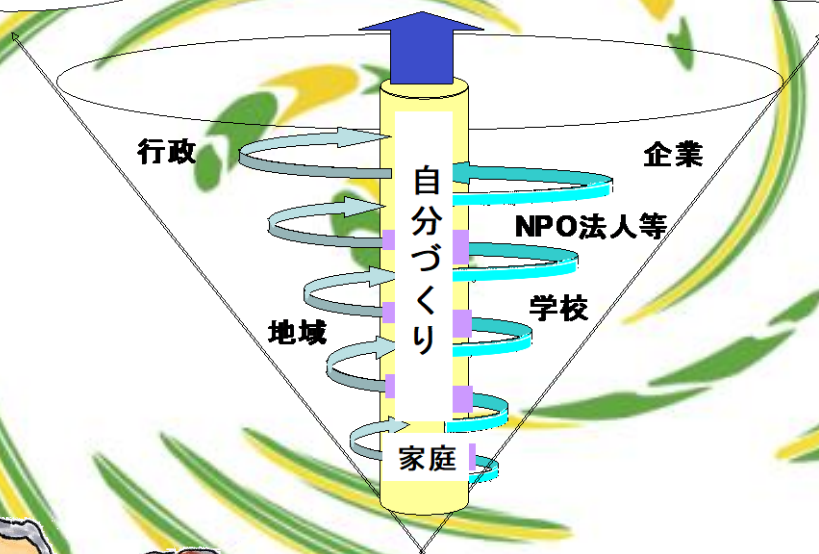
他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる

2 自分らしさを探求する段階



自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる

社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる



4 豊かな人生を探求する円熟の段階



3 社会的・経済的に自立する段階

生涯を通じた人づくりの段階におけるそれぞれの役割

1 健全な心身と生活の基礎を培う段階（乳・幼児期） 0歳から概ね6歳頃まで

親への信頼感を深めながら、家庭を中心に、基本的な生活習慣や態度を身に付けるとともに、集団での遊びや運動などの体験を通じて、健全な心身の基礎を培う。

- (家庭) 子育て・教育を通じた生活の基本に関する学びの提供
- (地域) 子育て家庭への支援、交流の場の提供
- (幼稚園・保育所) 遊びや体験を通じた総合的な教育や保育の推進
- (企業) 子育て家庭への理解促進、従業員などの子育て支援
- (市町村) 子育て支援や幼稚園・保育所・小学校などの連携促進
- (県) 家庭教育の大切さを共有できる環境づくり

2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期） 概ね6歳頃から18～22歳頃まで

それぞれの学校段階において、確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う。

- (家庭) 自己形成や進路実現に向けた的確な支援
- (地域) 異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援
- (学校) 学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業などと一体となった学校づくり
- (企業) 職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援
- (市町村) 地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくり
- (県) 様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備

3 社会的・経済的に自立する段階（成人期） 概ね18～22歳頃から65歳頃まで

職業生活への円滑な移行と社会的・経済的な自立をめざし、自覚と責任ある行動力や社会に貢献する力を身に付ける。

- (家庭) 暮らしの営みや子育てなどを通じた学びの提供
- (地域) 活動の担い手となる交流の場・機会の提供
- (学校) 子育ての相談・支援や生涯学習などの場・機会の提供
- (企業) 仕事を通じた職業人・社会人としての学びの提供
- (市町村) 身近な地域における教育支援や生涯学習などの場・機会の提供
- (県) 広域的な教育の支援や生涯学習などの場・機会の提供

4 豊かな人生を探求する円熟の段階（円熟期） 概ね65歳以上

学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいをもち、自分づくりに取り組むとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に努める。

- (家庭) 健康で豊かさのある家庭生活の提供
- (地域) 豊かな知識や経験を生かせる場・機会の提供
- (学校) 長い経験から得た知識や技能を次世代の育成に活用する場や機会づくり
- (企業) これまでに身に付けた知識や経験の積極的活用
- (市町村) 地域での自分づくりを応援する場・機会の提供
- (県) 自己を高めることのできる環境づくり